

水の音

岸本加世子

水の音

岸本加世子

飛鳥新社

「水の音」

平成3年11月7日 第1刷発行

定価 1100円 (本体1068円)

著者 岸本加世子

発行者 土井尚道

発行所 株式会社 飛鳥新社

〒101東京都千代田区神田神保町2-10 三辰ビル

電話 03-3263-7770

印刷所 株式会社 光邦

製本所 大口製本印刷株式会社

落丁、乱丁はおとりかえいたします。

本書の無断複写・複製・転載を禁じます。

©Kayoko Kishimoto Printed in Japan 1991
ISBN4-87031-096-1 C0095 P1100E

「
水の音
」

装帧／多田 進

写真／検見崎誠

「水の音」もくじ

山仁麻以子は「コンナトコロデ、ネソベツテハイラレナイ」と思う。 12

「山仁麻以子」むせび泣く、ヒロイン。 22

「山仁麻以子」の本名、弘美。スイカを食う。 36

「山仁麻以子」は麻布に部屋を持っている。 40

山仁麻以子、少しとまどう。 46

弘美、猫を捜す。 56

弘美、二十三歳の恋。 64

麻以子、車の中で泣く。 78

麻以子、自分を淫らだと思う。 82

麻以子、女優の争いを見る。 96

デビュー当時の「麻以子」を想う弘美。 102

麻以子は「親友が出来た」と思った。 110

麻以子、本当に恋がしたくなる。 120

弘美は「女優・麻以子」を誇らしく思う。 126

麻以子、ホテルをキャンセルする。 134

弘美「麻以子が情けない」と思う。 144

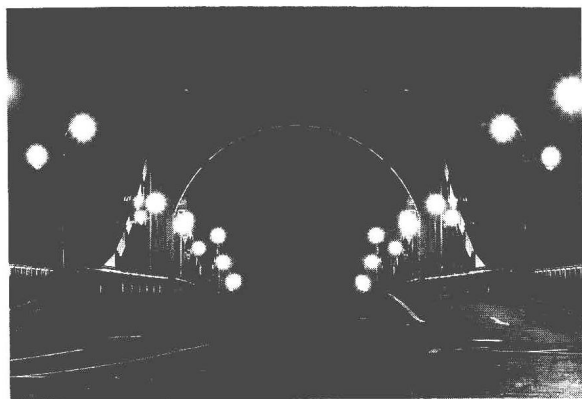
弘美は母に叱られる。 152

麻以子の幸せがかける。 158

麻以子は何も守ってあげられない。 166

麻以子は、スポーツクラブに入る。 170

その時母親は「芸能界にくれてやった娘だ」と少女に言った。少女はその言葉
葉を励ましの意味にしかとれなかった。

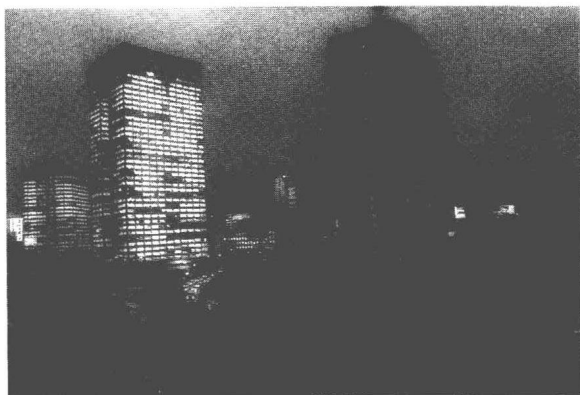


山仁麻以子。

ひとりになった時、少女は口に出してつぶやいてみる。「ヤマニマイコ……
ヤマニマイコ……」



女優としてこの名前を十五年にわたって使うとは、まだバージンのその子は夢にも思いませんでした。なんとなく、別の名前を持つことは、罪悪感に似たスリルを感じただけでした。



山仁麻以子は「コンナトコロデ、
ネソベツテハイラレナイ」と思う。



メイキャップのアシスタントの膝の上に手が持っていかれた。

赤く塗られる私の爪……私の意志とは関係なく、女優「山仁麻以子」が出来上がっていく。

「三宅さんのお母さん亡くなられたそうですが、花と香典どうしますか？」

マネージャーが手帳に目を落としたまま尋ねてくる。

「中村さんの二十周年のパーティーは欠席で出しました。そのように挨拶しといて下さい」

事務的に片付けられていく、私の人間関係。

マニキュアで濡れた爪を触らないように立ち上がると……湯上がりの子供のように突っ立っているだけで、次々と衣装を着せられていく。

見られても良いような下着を買わなくなっていた。鏡にうつる、赤い濡れた爪には場違いなパンティーとブラジャー。

廊下で馬鹿笑いをしていたスタイリストも楽屋のドアを開けたとたん、笑いを飲み込んで、抜き足差し足で事を片付けていく。

「ちよつと寒いわね」

付き人の子が慌てて楽屋をキョロキョロ見まわして、クーラーの切り方を聞きに出て行った。

ヘアメイクが続けられる。

ハケを置く音。